

学校5日制と子どもたちの生活

子どもの満足・保護者の期待・教職員の願い



千葉県教職員組合・学校教育改革推進委員会
ちば県民教育文化研究所・調査研究委員会



ちば県民教育文化研究所 千葉市中央区中央4-13-10 千葉県教育会館 TEL.043(224)0484 発行責任者 宮本 昌典

子どもたちに豊かな教育を 学校・家庭・地域のコーディネートを築こう

ちば県民教育文化研究所長

宮本 昌典



当研究所調査研究委員会は、2003年4月に千葉県教職員組合より、「教職員・子ども・保護者がゆとりを持ち、子どもたちに豊かな教育を実現するために実態調査を行い、提言をめざした研究」の諮問を受けました。2004年3月に、学校5日制実施後多忙化する「教職員の実態・分析」を「中間報告」として発行。2004年度は、学校5日制下での学校生活や家庭・地域生活における、子ども・保護者の期待感や満足度についてアンケート調査を実施。調査対象は小・中学生各700名、その保護者1400名です。その結果をまとめ、提言としました。

学校5日制がスタートして3年。小学生・中学生は学校や家庭での生活リズムが定着し、土曜日・日曜日の時間的なゆとりは確保されました。しかし、時間の有効活用については十分とはいえません。小・中学生は、テレビ・マンガ・ゲームで過ごす割合が高く、地域行事やボランティアへの参加がほとんど見られません。中学生の多くは休日にも部活動に参加し、「活動量・時間が多い」と感じ、疲労感から活動のない時間を寝て過ごす回答が数多く見られます。指導する教職員にも負担感が多く見られます。

学習に関して、小・中学生は以前より増えた体験を通しての学習に満足感をもち、少人数でのわかりやすい授業を望んでいます。保護者も基礎・基本の内容の定着を期待しています。教職員は、少人数指導や総合学習の準備に多くの時間が必要となり、小・中学生と接する時間が減っています。家庭学習は小・中学生ともに1時間未満が半数以上を占め、全くしないとの回答は小学生より中学生に多いという実態には驚かされます。地域の文化施設の利用もまだ少数にとどまっています。

好奇心を刺激し、意欲をもって学習することで成就感、満足感を体得し、新たな好奇心が誘発される学習意欲のサイクルが機能していないため、小・中学生は時間を有効に使えないのではないのでしょうか。

学校5日制は、学校・家庭・地域のそれぞれが役割を分担し、協力して小・中学生に多くの体験の機会を提供し、自ら学び自ら考える「生きる力」を育むことをめざしています。今後とも、三者の連携無くして学校5日制の目的の達成はありえませんし、何より今求められているのは、三者間のコーディネートだと思います。

おもな内容

1. 学習・学校生活の満足度・・・子ども・保護者の満足と期待は？
2. 部活動・・・部活動と子ども・教職員の考えは？
3. 先生とのコミュニケーション・・・教職員と一緒にいろいろしてみたいこと？
4. 保健室・・・保健室は子どもの居場所？
5. 家庭・地域での生活・・・小学生より勉強しない中学生？